

公益財団法人日本オリンピック委員会事務局
公益財団法人日本スポーツ協会事務局
公益財団法人日本パラスポーツ協会事務局

御中

スポーツ庁健康スポーツ課長
中村 宇一
スポーツ庁地域スポーツ課長
大川 晃平

スポーツ活動における熱中症事故の防止について（依頼）

標記については、例年、御協力をいただいているところでありますが、スポーツ活動中をはじめとして、依然として熱中症による被害が多く発生しております。

令和6年度の夏の気温は、気象庁による1946年の統計開始以降、西日本と沖縄・奄美では1位、東日本では1位タイの高温となり、日本国内での熱中症による救急搬送人員数は97,578人と、調査が開始された平成20年以降で最も多くなりました（別紙）。

このような中、公益財団法人日本スポーツ協会が、2024年2月に公認スポーツ指導者10,194名を対象に「スポーツ現場における熱中症予防に関する実態調査」を行った結果、以下のとおり、熱中症対策が十分に行われていないことが分かりました。

（参考）スポーツ現場における熱中症予防に関する実態調査のポイント

- ・「水分補給（98.9%）」はほとんどの指導者が実践しているが、「活動時間の変更（45.2%）」「身体冷却（44.9%）」「暑熱順化（22.0%）」は50%に満たない。
- ・身体外部冷却の方法は、「頭部・頸部冷却（75.3%）」が多い一方、「手掌冷却（32.1%）」は少数。
- ・暑熱順化は、必要な期間は一般的に5日間を要するが、実施期間を「1～2日（33.6%）」と回答した指導者の割合が最も多い。
- ・選手の健康チェックは、本来であれば毎日実施するべきだが、半数近い指導者が毎日実施していない又は全く実施していない。

<熱中症対策として実践している方法>

水分補給	98.9%
体調チェック	73.8%
飲水タイムの設定	67.9%
運動量・強度の調整	67.2%
活動時間の変更	45.2%
身体冷却	44.9%
暑熱順化	22.0%
その他	4.5%

<実践している外部冷却の方法>

頭部・頸部冷却	75.3%
アイスパック	62.9%
送風	61.6%
手掌冷却	32.1%
アイスバス	11.6%
クーリングベスト	5.5%
その他	2.8%

<暑熱順化の実施期間>

1～2日	33.6%
3～5日	31.7%
6～7日	15.6%
8日以上	19.0%

<健康チェック実施頻度>

毎日行っている	54.9%
時々行っている	33.4%
行っていない	10.2%
その他	1.5%

注) 調査結果の詳細は以下の URL 参照

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid1441.html>

こうした実態を踏まえつつ、熱中症予防のため、「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(JSP0)等を参考として適切な措置を講ずることが極めて重要です。

スポーツ庁においては、熱中症の事故防止のための適切な措置を講じるよう、都道府県及び指定都市スポーツ主管課に対し、「スポーツ活動における熱中症事故の防止について(依頼)」(別添)のとおり通知しましたので、お知らせします。

熱中症の発生は、身体が暑さに慣れていない時期に起こりやすいことを踏まえ、貴団体におかれては、別添を参照し、熱中症事故防止のための適切な措置を講ずるとともに、本件について、加盟・登録団体、その他の関係機関に対しても周知されるようお願いいたします。

また、貴団体もしくは各加盟・登録団体等での研修会や講習会(監督会議、審判講習会、保護者向け説明会を含む)等の機会を活用して熱中症事故の防止に向けた周知・啓発を促進していただくようお願いいたします。その際は、適切な予防措置、指導者等の責任などを記載したチラシ兼ポスター「スポーツ活動における熱中症事故の防止」、スポーツ団体における熱中症対策取組事例集等も是非ご活用ください。

【本件担当】

(スポーツ活動中の熱中症予防一般)
スポーツ庁健康スポーツ課
担当：見供
アドレス：kensport@mext.go.jp
電話：03-5253-4111(内線4140)

(子供のスポーツ活動中の熱中症予防)
スポーツ庁地域スポーツ課
地域スポーツ振興係 担当：井手、山木
アドレス：tiikisport@mext.go.jp
電話：03-5253-4111(内線3953)